

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
検査総合管理学特論	3年次	必修	講義	2単位（60時間）	金子 博司 ※
授 業 概 要					
臨床検査技師として必要な検査管理学、精度管理学、検査機器学と、それらの基礎となる科目について教育する。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療における臨床検査の意義、組織、業務について説明できる。</li> <li>・検査領域で共通して使用する機器を中心に、その原理、使用目的、取扱い上の注意、保守管理について説明できる。</li> <li>・検査領域における精度管理について説明できる。</li> <li>・医用工学機器を扱うにあたって、検査領域に必要な医用工学の基礎知識と機器構成の基本回路について説明できる。</li> </ul>					
回	学 習 内 容				担当教員
1-4	検査管理学				金子 博司 ※
5-8	精度管理学				小林 浩二
9-12	検査機器学				金子 博司 ※
13-16	医用工学概論				田口 洋介
17-20	情報科学				大西 秀典 ※
21-30	公衆衛生学				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験の既出題問題を中心に講義を行う。</li> <li>・予習及び復習により理解を深めること。</li> </ul>					
評 価 方 法					
<p>・国家試験出題基準に準ずる問題200題を定期試験とし、その得点率により評価する。なお、試験科目及び出題数は次の通りとする。</p> <p>臨床検査総論（検査管理総論及び寄生虫学を含む。）から20題、臨床検査医学総論（臨床医学総論及び医学概論を含む。）から10題、臨床生理学から26題、臨床化学（放射性同位元素検査技術学を含む。）から32題、病理組織細胞学から28題、臨床血液学から18題、臨床微生物学から22題、臨床免疫学から22題、公衆衛生学（関係法規を含む。）から10題、医用工学概論（情報科学概論及び検査機器総論を含む。）から12題とする。</p> <p>・定期試験は3回実施し、各回の成績は総合的に（1回目20%、2回目30%、3回目50%）評価する。なお、小テストの平均点を特論単位認定試験総合成績に加味（小テスト20%、特論単位認定試験80%）する。</p>					
先 修 科 目					
基礎分野並びに専門基礎分野の医療関係法規概論、看護学概論、情報科学、専門分野の臨床病態学特論、形態検査学特論、生物化学分析検査学特論、病因生体防御検査学特論、生理機能検査学特論、チーム医療演習、臨地実習を除く必修科目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕</p> <p>各科目担当教員指定の教科書及び配付資料を使用する。</p>					